

遠い遠い はるかかな道は  
冬の風が 吹いているが  
谷間の春は 花が咲いている  
ひとりひとり 今日もひとり  
ひとりひとり はるかかな道は  
つらいだろうが がんばろう  
吉い坂も 止まれは下がる  
続く続く 明日も続く  
銀色のはるかかな道

## 銀色の道

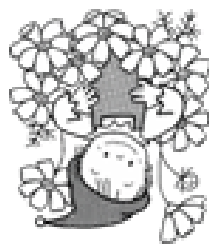
空よ 水色の空よ  
雲の上に 夢をのせて  
空よ 私の心よ  
思い出すの 思い出を  
初めて 芽生えた  
英郷の 野山で  
あどけない 二人の 小さな愛  
空よ 教えてほしいの  
あの娘は 今どこにいるの

## 空よ

春を愛する人は 心清き人  
スミレの花のような  
ほくの友だち  
夏を愛する人は 心強き人  
岩をくだく旅のような  
ほくの父親  
秋を愛する人は 心深き人  
愛を語るハムネのような  
ほくの恋人  
冬を愛する人は 心広き人  
積雪をとかす大地のような  
ほくの母親

## 四季のうた

## ナルク茂原



## わたしの愛唱歌

## 花の街

七色の谷を越えて  
流れて行く 風のリボン  
輪になって 輪になって  
かけていたよ  
春よ春よと かけて行ったよ  
  
美しい海を見たよ  
あふれていた 花の街よ  
輪になって 輪になって  
隔っていたよ  
春よ春よと 隔っていたよ

## あざみの歌

山には山の 愁いあり  
海には海の 悲しみや  
まして心の 花園に  
咲きしあざみの 花ならば  
  
高嶺の百合の それよりも  
秘めたる夢も ひとすじに  
くれない燃ゆる その姿  
あざみに深き わが想い

## 北上夜曲

においやさしい 白百合の  
濡れているよな あのひとみ  
思い出すのは 思い出すのは  
北上河原の 月の夜  
  
宵のともし火 ともすころ  
こころほのかな 初恋を  
思い出すのは 思い出すのは  
北上河原の せせらぎよ  
  
銀河の流れ 仰ぎつつ  
星を数えて 君と僕  
思い出すのは 思い出すのは  
北上河原の 星の夜

## 心の窓にともし灯を

いじわる木枯らし 吹きつける  
古いセーター ぼろシューズ  
泣けてくるよな 夜だけど  
頬っぺをよせて ともしましょう  
心の窓に ともし灯を  
ホラ笑くばが うかんでくるでしょ  
  
真珠にかがやく飾り窓  
うつる美しい シンデレラ  
ポッケにやなんにも ないけれど  
かじかむ指で ともしましょう  
心の窓に ともし灯を  
ホラ口笛 吹きたくなるでしょ

## みかんの花が咲く丘

みかんの花が 咲いている  
思い出の道 丘の道  
はるかに見える 青い海  
お船が遠く かすんでる  
  
黒い煙を はきながら  
お船は どこへ行くのでしょうか  
波に揺られて 島の影  
汽笛がボウと 鳴りました  
  
いつか来た丘 母さんと  
一緒にながめた あの島よ  
今日もひとりで 見ていると  
優しい母さん 思われる